

税制調査会（第6回総会）議事録

日 時：令和7年11月18日（火）16時15分～

場 所： WEB併用会議（内閣総理大臣官邸大ホールを含む）

○翁会長

ただいまから、第6回「税制調査会」を開会いたします。

皆様におかれましては、御多忙の中、御出席いただきましてありがとうございます。また、オンラインで御出席の先生方も、どうぞよろしくお願いいたします。

本日も公開での開催となりますので、プレスの皆様にも御入室いただいております。

さて、議事に入る前に、委員に交代がございましたので御報告いたします。机上にも委員名簿をお配りしておりますが、これまで委員を務めておられました刀祢館さんが委員を辞任されたことに伴い、後任として大隅隆さんが任命されておりますので、ここで御紹介申し上げます。大隅委員、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、議事に入りたいと思います。

皆様御案内のとおり、政府税制調査会は内閣総理大臣の諮問機関でありますこと、また、本日は、高市総理御就任後、初めての政府税制調査会総会となりますことから、総理に御出席をいただいております。この後、御挨拶を賜れればと思っております。

また、本日は、城内内閣府特命担当大臣、片山財務大臣、林総務大臣、尾崎官房副長官、佐藤官房副長官、露木官房副長官にも御出席いただいております。

それでは、早速ではございますが、高市総理大臣から御挨拶を頂戴できればと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○高市内閣総理大臣

ありがとうございます。

委員の皆様におかれましては、日頃から、政府税制調査会の議論に精力的に御参加を賜り誠にありがとうございます。

高市内閣におきましては、国民の皆様の今の暮らしや未来への不安を希望に変え、「強い経済」を作り、日本列島を強く豊かにしてまいります。この「強い経済」を構築するために、「責任ある積極財政」の考え方の下、戦略的な財政出動を行います。物価高対策、大胆な危機管理投資による強い経済の実現などの重要課題に対応をしてまいります。そうした中にありましても、政府債務残高の対GDP比、これを引き下げていくということで、財政の持続可能性を実現し、マーケットからの信認を確保してまいります。

中でも最優先で取り組むことは、国民の皆様が直面している物価高への対応でございます。この点、例えば、所得税の基礎控除を物価に連動した形で更に引き上げる税制措置について議論を進めることとしております。

政府税制調査会におかれましても、その制度設計について、専門的に、また実務的

な観点から御議論をいただいておりますけれども、引き続き所得税の在り方について御議論をいただきますように、お願いを申し上げます。

また、租税特別措置については、これはデータに基づく政策効果の検証が大切であると思っています。これを不断に点検をしていかなければなりません。

この調査会におかれましては、税制にかかるEBPMの議論を進められていると聞いておりますけれども、関連省庁とも連携しながら、更に議論を進めていただけたらありがたく存じます。

最後に、税制というのは経済社会を映し出す鏡とも言われます。少子高齢化やグローバル化といった、日本が直面する経済社会の構造変化を踏まえて、我が国税制のあるべき姿について、中長期的な視点からも御議論をお願いしたく存じます。

結びに、委員の先生方の御尽力に改めて厚く御礼を申し上げます。どうかよろしくお願いいたします。

○翁会長

高市総理、どうもありがとうございました。

政府税制調査会におきましては、ただいま総理から賜りました御挨拶にございましたとおり、所得税の関係や租税特別措置等の効果検証・点検の関係を始め、経済社会の構造変化を踏まえたあるべき税制の姿について、引き続き、中長期的な視点から議論を行ってまいりたいと思っております。

それでは、ここで公務日程の都合上、高市総理をはじめ政務の皆様は御退席されます。

○高市内閣総理大臣

会長、よろしくお願いいたします。

(政務退室)

○翁会長

総理からの御挨拶を踏まえまして、引き続き、経済社会の構造変化を踏まえた税制のあり方について、中長期的な視点から議論を行ってまいりたいと考えております。

今後の具体的な議論の進め方などにつきましては、委員の皆様とも御相談させていただきながら検討していきたいと思っております。

次回以降の開催日時等に関しましては、決まり次第、改めて事務局から御連絡いたしますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、このあたりで本日は閉会といたします。

本日の会議の内容は、この後、私の方から記者会見で御紹介したいと思います。

皆様、大変お忙しい中、御出席いただきまして、どうもありがとうございました。

[閉会]